

## 第31回酪農諮問委員会実施概要

1. 開催日時 2026年4月24日（金）14:00～17:00

2. 会場 雪印メグミルク（株）本社 1A 会議室

3. 出席者

諮問委員 坂井 正喜（（元大樹町農業協同組合 代表理事組合長）  
相馬 義樹（元全国酪農青年女性会議 監事）  
安部 強（元東北生乳販売農業協同組合連合会 代表理事専務）  
鈴木 宣弘（東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授）  
矢坂 雅充（公益財団法人日本農業研究所 客員研究員）  
清水池 義治（北海道大学大学院農学研究院 准教授）

当 社 佐藤雅俊代表取締役社長、田川福彦代表取締役副社長、戸高聖樹代表取締役副社長、若林偉彦常務執行役員、津田知亮執行役員、横田徹シニアアドバイザー、事務局(酪農総合研究所)

4. 開催内容

今回の諮問テーマは「国産チーズの維持・拡大をどのように進めていけばよいか」とし、6名の諮問委員の皆様からご意見を伺いました。

不安定な国際情勢もあり酪農乳業界の持続性に強い危機感があることを共有し、国内乳製品需要 1,200 万トン（生乳換算）をどう国産生乳で支えていくのかという大きな命題の中で、国産ナチュラルチーズ増産に向けた議論が行われました。

生産者委員からは、「酪肉近で掲げた生乳生産量 780 万トン達成のためには国産チーズ増産が必要不可欠だと理解している。」「行政支援も含めて関係者で同じ方向を向くために生産者も協力していきたい。」との意見もありました。

研究機関関係委員の中からは、「関割制度による国産需要消失への対応は待ったなし。」と指摘があり、具体的な国産チーズ増産へ向けた酪農支援策についての提言もありました。

最後は参加者で「危機感を持って、国産チーズ増産に向け業界が一致した認識で声をあげていこう。」と確認しました。

